

第1章 基本的な考え方

1 総合戦略策定の趣旨

我が国の人口が平成 20(2008)年をピークに減少局面に入り、今後加速度的に進むことが予想される中、国は人口減少克服と地方創生の実現を図るため、「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

本市においても、平成 28(2016)年 3 月に「小牧市人口ビジョン」及び「小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、人口減少克服と地方創生の実現を図るため、各種取組みを進めてきたところです。

現状では、本市の人口推移は将来人口推計を上回る数値で推移していますが、令和 22(2040)年を境に下回る事が想定されます。引き続き、地方創生の取組みを展開することによって人口減少を克服していくことが必要です。

国においては、地方創生について「継続を力」とし、従来の枠組みを維持しつつ、必要な強化を図るため、第 2 期総合戦略を策定することとしております。また、愛知県においても、第 2 期総合戦略は基本目標の枠組みを維持しながら施策の充実を図ることとしております。

本市においても第 1 期総合戦略の枠組みを継承し、施策の充実を図りながら第 2 期総合戦略を策定することで、地方創生のより一層の充実・強化に向けて取り組んでまいります。

2 総合戦略の計画期間

本市の第 2 期総合戦略の計画期間について、令和 2(2020)年度から令和 6(2024)年度までの 5 年間とします。

第2章 基本目標と施策推進方策

1 目指すべき将来の方向

小牧市人口ビジョン(令和元年度改訂版)では、以下の「目指すべき将来の方向」を定めました。

- ▶ 多くの企業が立地する小牧市ならではの強みを活かす
- ▶ 若者世代の仕事と子育ての両立を支援し、ライフステージに適合した居住環境を提供する
- ▶ 小牧市の魅力を小牧市民及び近隣市町の生活者に伝える

さらに、上記3つの「目指すべき方向」をもとに、下記課題へ対応すべく、地方創生の取組みを進めます。

小牧市人口ビジョン(令和元年度改訂版)で顕在化した課題

全体

- ・平成 27(2015)年を境に人口減少が進行(年平均△0.13%)
- ← 日本人人口は減少(5年で2,907人減)も外国人人口は増加(5年で2,317人増)

自然動態

- ・日本人のみでは平成 28(2016)年以降自然減(出生数減少及び死亡数増加に伴う)

社会動態

- ・日本人のみでは平成 26(2014)年以降転出超過(外国人は転入超過)
- ・日本人は、20～30歳代で転出超過が顕著
- ・近隣市町間では豊山町を除き転出超過

その他

- ・外国人人口の増加(5年で2,317人増)
- ・東部地区(桃花台地区)の人口減少・高齢化の進展

2 第2期総合戦略の基本目標

(1) 基本目標

本市の人口は、小牧市人口ビジョン(令和元年度改訂版)の「人口の将来展望」で示したとおり、2035年頃までは想定で上回る状況となっております。しかしながら、2040年を境に下回ることから、これまでの基本目標の枠組みを維持しながらも将来にわたって成長力を確保するために、国と同様に新たな横断的視点を追加し推進していくこととします。

基本目標1

持続して発展を続ける産業・経済の確立による
雇用の確保・創出

基本目標2

若年世代の希望がかなう結婚・出産・子育て環境の整備
(こども夢・チャレンジ No.1 都市の実現)

基本目標3

都市の活力と暮らしの安心の創造

基本目標4

訪れたいくなる、住みたいくなる小牧の魅力の発信と創造

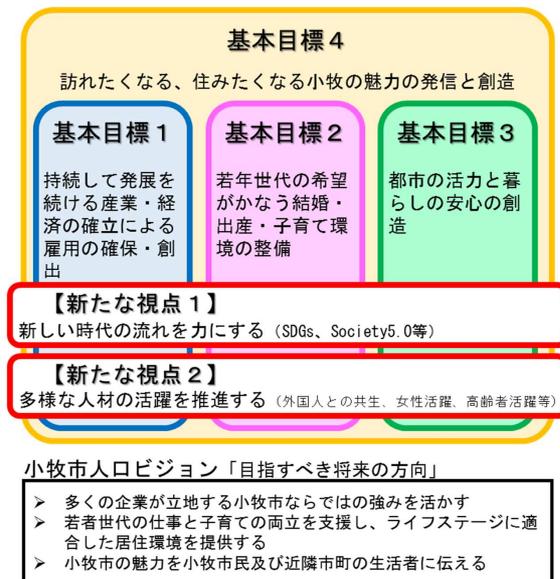
【新たな視点1】

新しい時代の流れを力にする(SDGs、Society5.0*等)

【新たな視点2】

多様な人材の活躍を推進する(外国人との共生、女性活躍、高齢者活躍等)

第2期小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略体系図



施策の推進にあたっては、国の政策 5 原則*(自立性・将来性・地域性・総合性・結果重視)を踏まえるほか、小牧市人口ビジョン(令和元年度改訂版)で顕在化した課題を踏まえながら、施策・事業を展開することとします。

(2) 小牧市まちづくり推進計画

及び小牧市地域ブランド戦略との関係

総合戦略は、「小牧市まちづくり推進計画」のうち人口減少克服や地方創生につながる施策を取りまとめた計画です。

また、『住みつけたいと思うまち』を目指したイメージ戦略である「小牧市地域ブランド戦略」の要素も取り入れます。

(3) SDGsの推進

平成 27(2015)年 9 月の国連サミットにおいて、全会一致で採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」の中で、先進国を含む国際社会全体の持続可能な開発目標として SDGs(Sustainable Development Goals)が掲げられました。17 のゴール(目標)と 169 のターゲットからなる SDGs は、経済・社会・環境にかかわる幅広い課題に統合的に取り組むためのものであり、国際社会だけでなく、地域の持続的な発展にとっても重要な普遍的な目標であるとされています。

本市では、小牧市まちづくり推進計画 第 1 次基本計画において、SDGs を推進していくこととしており、第 2 期総合戦略においても同様に SDGs の目標達成に寄与する取組みを進めていくこととします。

※本市の第 2 期総合戦略では、第 3 章において、各基本目標との関連性を明示するために、SDGs のアイコンを付しております。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



3 総合戦略の推進方策

(1) 進行管理

本市の総合戦略の進行管理については、Plan(計画)、Do(実行)、Check(分析・評価)、Act(改善・改革)のマネジメントサイクル(PCDAサイクル)を確立するため、有識者等からなる小牧市まち・ひと・しごと創生推進懇談会において、各基本目標及び施策において設定した数値目標や重要業績評価指標(KPI)の達成状況についての検証を行うこととしております。また、必要に応じて施策の見直しを行うなど、総合戦略を推進していきます。

第3章 基本目標における基本的方向と具体的施策

基本目標1

持続して発展を続ける産業・経済の確立による 雇用の確保・創出



【現況と課題】

- 本市は陸空の要衝として機能しており、名古屋を拠点とする関連企業に近い立地条件を備えていることから、新規立地に高い優位性を備えています。引き続き、市内企業の事業規模拡大や市外から新たに企業を呼び込むための取組みを進める必要があります。
- 「地域未来投資促進法*」に基づく愛知県基本計画や「アジア No.1 航空宇宙産業クラスター形成特区*」において、次世代自動車や航空宇宙産業などの先進的な技術の促進が定められております。このため、本市においても新たな成長産業を呼び込む・育む必要があります。
- 経済センサスによると平成 26(2014)年から平成 28(2017)年までの全産業の事業所の開業率が3.9%に対して廃業率が9.5%で、近隣市と

同様に廃業が開業を上回っています。事業所は市内の経済活動を活性化させる重要な役割を担うことから、起業・創業を支援する必要があります。

- 近年、国による・キャッシュレス・消費者還元事業等の政策により、今後さらにキャッシュレス決済が広まることが想定されます。事業者が対応できるように支援することが求められます。
- 近年、実社会の中であらゆる事業・情報がデータ化され、ネットワークでつながる「IoT」、機械が自ら学習し、人間を超える高度な判断を行う「AI（人工知能）」、多様かつ複雑な作業を自動化するロボットなど、「第4次産業革命」とも称される技術革新が世界規模で従来にはないスピードとインパクトで進行しており、労働力不足の現状もある中、今後市内事業者の近未来技術への対応が求められます。
- 少子高齢化が進む中、新卒者などの人材確保が困難なことから、事業所の採用活動と市民の求職活動双方への支援など、従来の支援に加え、雇用の確保につながる支援策の充実が課題となっています。

基本的方向

小牧市の強みや特色を生かしながら産業力を高め、市内企業の流出防止とともに市外から多くの企業を呼び込むことで、雇用を確保しつつ、将来にわたり持続可能なバランスの取れた足腰の強いまちを目指します。

また、市内事業者の近未来技術への対応や起業・創業など新たな取組みへの支援をすることで、市内の経済活動の活性化を図ります。

数値目標	基準値	目標値(令和6年度)
従業者数(製造業、卸売・小売業)	51,353人 (平成28年)	53,093人
市内総生産額	970,200百万円 (平成27年)	977,000百万円
製造品出荷額	1,362,734百万円 (平成29年)	1,444,907百万円
年間商品販売額	712,371百万円 (平成27年)	726,028百万円

基準値は原則として平成30年度の数値を示していますが、基準年次をそれ以外とする場合は、()書きで基準時点を示しています。

施策1. 企業誘致と産業集積の推進

(1) 次世代成長産業の集積強化

【目標】

次世代成長産業分野に属する企業の集積を図ります。

【主な取組み】

主な取組み	内容
① 新增設・設備投資に対する支援	工場等の新增設、既存工場への入居や工場設備の更新・増設に対する支援を行います。
② 次世代成長産業参入支援	こまき新産業振興センターと連携を図りつつ、航空機部品製造認証の取得支援や展示会等への支援など、次世代成長産業への参入を試みる企業の支援を行います。

【施策の進捗状況を測定するための指標】

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値(令和6年度)
次世代成長産業分野に属する新規企業の数(累計)	5件	7件

(2)企業誘致・工業用地の確保

【目標】

新規進出企業を増やすとともに、市内企業の流出防止に取り組みます。

【主な取組み】

主な取組み	内容
① 新增設・設備投資に対する支援	工場等の新增設、既存工場への入居や工場設備の更新・増設に対する支援を行います。
② 民間活力による工業用地開発支援	新たな工業用地確保に向け、12号条例を活用した民間活力による工業用地開発を支援します。

【施策の進捗状況を測定するための指標】

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値(令和6年度)
市の補助制度を活用して進出した企業数(累計)	15件	18件
新たな立地許可基準(12号条例)を活用した立地件数(累計)	2件	4件

施策2. 市内企業の操業支援

(1) 将来を見据えた市内産業力の強化

【目標】

将来を見据え、市内企業の新事業展開等の促進を図ります。

【主な取組み】

主な取組み	内容
① こまき新産業振興センターによる支援	企業の既存の技術や製品サービスの新たな市場への展開と、新製品・新サービスの展開を支援します。
② 新規事業や販路開拓に対する支援	企業の新たな設備投資や、販路拡大を目的とした展示会等への出展等に対し支援を行います。

【施策の進捗状況を測定するための指標】

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値(令和6年度)
こまき新産業振興センターの支援活動を契機に生産性を向上させた企業数	—	20件 (令和4年度目標値)
生産拠点などの新增設件数(累計)	—	10件 (令和4年度目標値)
中小企業次世代成長産業設備等導入補助金の活用件数(累計)	14件	30件

施策3. 起業・創業支援

(1) 起業・創業支援

【目標】

新たに起業、創業する人を増やします。

【主な取組み】

主な取組み	内容
① 創業支援セミナーの開催	創業の基礎知識やビジネスプランの立て方、計画的な資金調達などについて分かりやすく説明するセミナーを開催することで起業・創業につなげます。
② 起業・会社設立に対する支援	会社設立に関する諸費用についての助成、一定の創業資金の融資に関する利子の一部を補助します。

【施策の進捗状況を測定するための指標】

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値(令和6年度)
セミナー参加者の起業(創業)者数(累計)	24人	54人
起業・創業者に対する各種補助件数	57件	70件

施策4. 企業の人材確保と働き手の就労支援

(1) 採用活動と求職活動の支援

【目標】

採用活動と求職活動をマッチングして、就職者数を増やします。

【主な取組み】

主な取組み	内容
① 新卒者等地域求職者と企業のマッチング支援	小牧・春日井市・商工会議所と連携し、就職説明会等を実施することで、地域求職者の就職機会の拡大を支援するとともに、地域内企業の雇用促進を図ります。
② 就労意欲がある高齢者の雇用創出支援	企業と働く意欲のあるシニア求職者の出会いの場として就職面接会等を実施することで、地域内企業の雇用促進を図ります。

【施策の進捗状況を測定するための指標】

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値(令和6年度)
市の施策を通じて就職した人数	7人	10人

基本目標2

若年世代の希望がかなう結婚・出産・子育て環境の整備 (こども夢・チャレンジNo.1 都市*の実現)



【現況と課題】

- 本市の自然動態(出生数・死亡数)をみると、平成 28(2016)年を境に出生数が死亡数を下回っており、その乖離幅は増加傾向にあり、少子化が進行しています。
- 本市の未婚率は、全国や愛知県同様年々上昇しています。また、平均初婚年齢は、長期的には右肩上がり得上昇しており、晩婚化が進展しています。
- 「出産に関する意識」について、子育て世代へのアンケート調査の結果をみると、理想の子どもの人数と予定の子どもの人数について依然差があり、その理由として、「経済的な負担が大きい」や「仕事と子育ての両立が困難」、「育児の心理的・肉体的負担」が主にあげられます。
- 地域で身近に相談できる相手がいないなど、子育てに不安を抱えている子育て家庭があります。それぞれのニーズに対応した適切な支援ができるような体制を整備する必要があります。
- 近年の社会は情報通信技術や人工知能などのテクノロジーが急速な発達を遂げており、私たちの生活に大きな変化をもたらしつつあります。このような大変革の時代に、未来社会を生き抜いていくことになることも達

は、社会の変化とともに必要に応じて自らを成長させ続け、生き抜いていける確かな力を身に付けることがとても大切です。

- そのため、若年世代の希望がかなう結婚・出産・育児環境をつくるとともに、こどもの夢への挑戦を応援し、こどもを中心に世代を越えて市民がつながり、あたたかく支え合い、暮らしやすい、魅力あるまちづくりを進める必要があります。

基本的方向

妊娠期から子育て期まで、だれもが安心して子育てができる体制を整えるとともに、子育てと仕事の両立を支える子育て支援サービスの拡充を図ります。

また、家庭環境や境遇にかかわらず、すべての子ども達が夢を育み、未来を描いて挑戦できる環境の整備及び来るべき未来社会を見据えて、充実した教育・子育て環境の実現を目指します。

数値目標	基準値	目標値(令和6年度)
合計特殊出生率	1.44 (平成29年)	1.80 (令和12(2030)年)
安心して子育てができるまちだと思ふ保護者の割合	82.6%	85.0%
将来の夢や目標を持っているこどもの割合	79.1%	85.1%
未就学児がいる母親の就業率	56.4%	80.0%

施策1. 結婚・出産・子育ての希望をかなえる支援

(1)結婚・妊娠・出産・育児の切れ目ない支援

【目標】

妊娠期から子育て期まで安心して子育てができる環境を整備します。

【主な取組み】

主な取組み	内容
①不妊・不育治療の支援	検査及び治療に要する費用の一部を助成することで、不妊・不育に悩む夫婦を支援します。
②妊娠期から子育て期までの相談体制の充実	子育て世代が子育て等に関する不安について気軽に相談できるよう、子育て支援の拠点である子育て世代包括支援センターや各児童館における相談体制を強化します。
③子育て家庭が交流し、支え合える場の充実	親子の孤立化を防ぎ、地域との関わり合いの中で不安感を緩和しながら子育てができるよう、子育て世代包括支援センターや各児童館など、親子が気軽に集い、交流できる場・機会を提供します。

【施策の進捗状況を測定するための指標】

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値(令和6年度)
子育て世代包括支援センターや各児童館での相談件数	6,320件	7,000件
子育てについて相談できる人がいる保護者の割合	96.9%	100%

(2)子育てと仕事の両立支援

【目標】

子育てと仕事を両立させるために、安心して子どもを預けることができる環境を整備します。

【主な取組み】

主な取組み	内容
①保育施設の待機児童の解消に向けた児童の受け入れ態勢の確保	希望するすべての人が子どもを預けて働くことができる体制を整え、待機児童ゼロを目指します。
②多様な保育ニーズに応える体制の充実	延長保育や休日保育をはじめとする多様な保育需要に対応するために、公立保育園の民営化や認定こども園化を進めるほか、特色ある保育サービスが提供できるよう保育の質の向上を図ります。
③放課後児童クラブの充実	児童が安全に放課後を過ごせるよう質の向上や機能の充実を図ります。

【施策の進捗状況を測定するための指標】

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値(令和6年度)
保育施設の待機児童数	0人 (平成31年4月1日現在)	0人
放課後児童クラブの待機児童数	0人	0人

施策2. こどもの夢・チャレンジの応援

(1)コマキッズドリームプロジェクトの推進

【目標】

すべてのこども達が、夢を育み挑戦できる環境を整備します。

【主な取組み】

主な取組み	内容
①こどもが夢に向かって挑戦する 機会の創出	夢の教室、市内産業見学会、学習支援事業「駒来塾」及びプログラミング講座の開催や、夢にチャレンジ助成金を支給するなど、こどもの夢を育み、こども自身が夢に向かって挑戦できる環境を創出します。
②ひとり親家庭等の支援	ひとり親家庭等のこどもが大学等に進学しやすい環境をつくり、また親子の学び直しを支援することで、より良い条件での就職や転職に向けた可能性を広げ、安定した雇用につなげていきます。

【施策の進捗状況を測定するための指標】

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値(令和6年度)
コマキッズドリームプロジェクトに参加したこどもの数	6,922人	10,000人

(2)Society5.0を見据えた教育の推進

【目標】

すべてのこども達が、来るべき未来社会を見据えた教育を受けることができる環境を整備します。

【主な取組み】

主な取組み	内容
①ICT教育の推進	「こどもの学習プロセスにおけるICTの活用」、「授業での学習効果を高めるICTの活用」などを軸に、ICT活用推進に積極的に取り組みます。

【施策の進捗状況を測定するための指標】

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値(令和6年度)
タブレットPCを活用した授業はわかりやすいと感じている児童生徒の割合	—	85.0%
タブレットPCなどの学習用コンピュータ1台あたりの児童生徒数	6.6人	1.0人

基本目標 3

都市の活力と暮らしの安心の創造



【現況と課題】

- 「しごと」と「ひと」の好循環を支えるためには、「まち」を活性化し、こどもから高齢者まで、市民一人ひとりがいきいきと安心して暮らせる環境を実現していく必要があります。
- 本市では、若年世代の転出超過が顕著であり、このまま急速な人口減少が進行すると、まちの活力やにぎわいが低下することが懸念されています。
- 東部地区（特に桃花台地区）において、近年人口減少・高齢化が進行しており、早急な対策が求められています。
- 高速道路のインターチェンジや国道が交差する西部地区など、通行量の集中により慢性的に渋滞が発生しています。道路整備や渋滞緩和に取り組む必要があります。
- 名鉄小牧線沿線や桃花台など一定の地域における人口密度を維持するとともに、日常生活に必要なサービスや行政サービスが住まいの身

近に存在する多極ネットワーク型のコンパクトシティ*を目指す必要があります。

- 近隣市町間の転出要因として、「公共交通の利便性」が挙げられます。令和 8(2027)年の品川-名古屋間の中央リニア新幹線の開業が迫る中、名古屋都心へのアクセスの向上が課題となっています。市内公共交通の整備を進める一方、名古屋都心へのアクセス向上を目指すため、地下鉄上飯田線平安通駅以南の整備が実現するよう関係機関に働きかける必要があります。
- 近年、外国人人口が右肩上がりに増加しています。国籍別では、東南アジア国籍の方の転入が多く、今後外国人との共生施策がより一層求められます。
- 高齢者の割合が増え続ける中、介護や困りごと支援など、行政だけでの対応は限界が生じてきます。そこで高齢者を含めたすべての市民が、地域で支え合って自分らしくいきいきと安心して暮らし続けることができる「幸せな高齢社会」の実現が求められています。

基本的方向

都市の活力を生むための核となる中心市街地の魅力を高めるとともに、「コンパクト・プラス・ネットワーク*」の考えのもと、人口減少と高齢化の進展の中でも持続可能な都市運営を目指します。

そして、健康・生きがいづくりと支え合いの地域づくりの循環により、自分らしくいきいきと安心して暮らすことができる「活力ある高齢社会(小牧モデル)」を構築します。

さらに、日本人市民と外国人市民が活躍する多文化共生のまちを目指します。

数値目標	基準値	目標値(令和6年度)
居住誘導区域内人口密度	54.3 人/ha	基準値の水準以上
生きがいを持って暮らしている65歳以上の市民の割合	82.9% (平成29年度)	基準値の水準以上
日常生活で外国人市民と接する機会がある日本人市民の割合	33.3% (平成29年度)	35.7%

施策1.“まち”の活力の創出

(1)魅力ある市街地の創出

【目標】

市内外の人が集い、滞在し、交流できる空間や居心地の良いやすらぎのある空間を創出します。

【主な取組み】

主な取組み	内容
① 中心市街地の都市機能強化	魅力あるサードプレイスとして、こどもから高齢者まで多くの市民が集う滞在型の「新しい図書館」、こどもを中心に世代や立場を越えて市民がつながるための「(仮称)こども未来館」、駅利用者の利便性の向上を図るための「小牧駅前広場等」の整備を一体的に進めるとともに、魅力と賑わいのある中心市街地を創出します。
② 東部地区の振興	桃花台地区を含む東部地区のまちの将来像などを明確にするため、「東部振興構想」を策定します。 また、市民四季の森と温水プールなど市内外から多くの人を訪れる施設がある東部地区の魅力をさらに高めるため、(仮称)農業公園などの整備を進めます。さらには、民間事業者が施設整備を進める(仮称)小牧ハイウェイオアシス及び東部スマートICの開設に向け、連携・協力し、周辺開発と一体となったまちづくりに取り組みます。
③ 良好な住環境の創出	名鉄小牧線沿線を中心に土地区画整理事業による市街地整備を促進します。

【施策の進捗状況を測定するための指標】

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値(令和6年度)
中心市街地の来訪者数	—	750,000 人
名鉄小牧駅の1日平均乗降客数	11,117 人/日	12,521 人/日
土地区画整理事業の施行区域内の居住人口	8,893 人	10,012 人

(2)暮らしを支える公共交通の構築

【目標】

市民の暮らしを支える持続可能な公共交通ネットワークを整備します。

【主な取組み】

主な取組み	内容
①交通結節点機能の強化	公共交通機関相互の乗り継ぎ利便性の向上を図るため、名鉄小牧駅東西の駅前広場の再整備を進めます。 また、桃花台ニュータウンにおいて、こまき巡回バスの運行の円滑化や大型路線バスの新たな乗り入れを視野に入れ、中央道桃花台バス停前ロータリーの整備を進めるほか、桃花台センター地区において、点在するバス停の集約化等を進めます。
②利用しやすい公共交通網の整備	鉄道、民間路線バス網を踏まえ、こまき巡回バスの再編を行い、より多くの方々にとって利用しやすい公共交通網を整備していきます。

【施策の進捗状況を測定するための指標】

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値(令和6年度)
公共交通機関の1日平均利用者数	44,094人/日	49,659人/日

施策2. 活力ある高齢社会(小牧モデル)の構築

(1)市民の健康寿命の延伸

【目標】

市民総スポーツを目指すとともに、疾病・フレイルの予防を推進することにより、健康の維持・増進を図ることができる環境を整備します。

【主な取組み】

主な取組み	内容
①スポーツ活動の機会の充実	多くの方がスポーツに取り組むことができるように、初心者向けスポーツ教室・講座の充実を図ります。
②フレイル予防の推進	運動機能や認知機能の低下、慢性疾患などの影響で高齢者の心身が虚弱とならないような活動を支援、推進します。
③歯科疾患予防の推進	全身の健康状態と関係が深い歯周病をはじめとした歯科疾患の予防と早期発見・早期治療のため、健診環境を整えるとともに、ウエルネス8020*を目指し予防に関する啓発を行い、歯と口腔の健康づくりを推進します。

【施策の進捗状況を測定するための指標】

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値(令和6年度)
週1回以上適度な運動をしている成人市民の割合	46.1%	65.0%
フレイル予防事業への参加者数	1,500人	3,700人

(2)生涯学習を通じた生きがいづくりと人材育成

【目標】

市民が生きがいを持って暮らせるよう、生涯学習環境の充実を図るとともに、地域貢献活動などの活性化に取り組みます。

【主な取組み】

主な取組み	内容
①生涯学習環境の整備	市民講座等を通じ、生涯学習活動のきっかけづくりをするとともに、学習活動に必要な情報発信や相談体制の充実を図ります。
②(仮称)生涯学習・市民活動センターの整備	市民活動及びボランティア活動、地域活動、生涯学習活動等の連携を図るための拠点施設として、(仮称)生涯学習・市民活動センターを設置します。

【施策の進捗状況を測定するための指標】

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値(令和6年度)
生涯学習の支援や指導に関わった市民の割合	7.7%	10.0%

(3)地域協議会を通じた地域活動の活性化

【目標】

市民自らが地域の課題解決に向けた話し合い、活動、支え合いのできる地域づくりを推進します。

【主な取組み】

主な取組み	内容
①地域協議会の設立	小学校区を基本単位として、区長をはじめ民生児童委員や保健連絡員、子ども会や老人会などの横断的な連携が機能するコミュニティ組織の設立を推進します。
②地域協議会による活動の支援	地域協議会における防災や地域福祉活動などの活動を支援します。

【施策の進捗状況を測定するための指標】

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値(令和6年度)
地域協議会が設立された数(累計)	8組織	16組織
福祉分野の活動をしている地域協議会の数(累計)	2組織	16組織

(4)健康・支え合い活動の充実と地域内循環の促進

【目標】

地域内循環を生み出す仕掛けであるポイント事業などを通じて、市民の健康づくりや支え合い活動の充実を図ります。

【主な取組み】

主な取組み	内容
①健康いきいきポイントの推進	健康づくりを自分ごととして習慣化するように行動変容を促し、健康で明るい生活を送ることができるよう、楽しく継続できる環境をつくり、市民の健康増進につなげます。
②支え合いいきいきポイントの推進	高齢化が進む中で、行政だけでは難しい「安全・安心な地域づくり」を市民とともに実現していくことを目指し、広く市民の地域活動への関心を喚起し、社会参加や地域貢献につなげ、市民の主体的な地域支え合い活動を育成、支援します。

【施策の進捗状況を測定するための指標】

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値(令和6年度)
健康いきいきポイント還元者数	1,088人	2,000人
支え合いいきいきポイント還元者数	849人	2,000人

施策3. 日本人市民と外国人市民が活躍するまちの実現

(1)多文化共生の推進

【目標】

日本人市民と外国人市民が、お互いに理解し、交流を深め、支え合い協力する環境づくりを推進します。

【主な取組み】

主な取組み	内容
①外国人市民の生活に必要な情報の提供	外国人相談窓口や市ホームページ、紙媒体などを利用し、外国人市民の生活に必要な情報を多言語で提供・発信します。
②外国人市民のコミュニケーションや日本語教育等の支援	小牧市国際交流協会、企業、NPO、地域コミュニティ組織などと連携し、外国人市民の生活やコミュニケーション、日本語教育などを支援します。
③多文化共生を理解する講座や交流する事業の支援	小牧市国際交流協会、企業、NPO、地域コミュニティ組織などと連携し、多文化共生を理解する講座や日本人市民と外国人市民が交流する事業を支援します。

【施策の進捗状況を測定するための指標】

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値(令和6年度)
日本人市民と外国人市民が交流する事業などへの参加者数	1,985人	2,200人

基本目標4

訪れたいなる、住みたいなる小牧の魅力の発信と創造



【現況と課題】

- 市民から選ばれるまちとなるには、本市に対する愛着や誇りを高めるとともに、市外に対しても本市の取り組みや魅力を積極的に発信していくことが大切です。また、あわせて地域の強みとなる資産を活用して、そのまちのよいイメージをつくり出していく取り組みも大切です。
- まちのにぎわいを創出するには、本市の魅力を高め、新たな人の流れを作り出す必要があります。
- 市内の主要な観光施設の入込客数は横ばい又は減少傾向にあり、市全体の観光入込客数は減少傾向です。また、主要なイベントの参加者数ではさくらまつり以外は、横ばい又は減少傾向です。
- 一方、新たな観光地点として「れきしるこまき(小牧山城史跡情報館)」がオープンし、小牧山を核とした地域資源の強化に取り組んでいます。今後、地域資源の魅力向上や小牧市ならではの食事・名物・特産品を掘り起こし、磨き上げることで、ブランド力の向上を図る必要があります。
- 若年世代が転出超過となっています。若年世代の定住につながる取り組みが必要です。
- そのため、地域ブランド戦略をより一層推進していくとともに、市内外の活発な交流を推進することで、より多くの人々が「訪れたいなる」、「住みたいなる」、「住みつけたい」と思うまちを目指す必要があります。

基本的方向

本市に対する愛着や誇りを醸成するため、地域ブランド戦略を推進するとともに、市内外に本市の魅力発信することで小牧市の認知度を高めます。

また、中心市街地の魅力と賑わいを創出するとともに、地域資源の魅力を高めることで、新たな人の流れを作ります。

さらに、定住につながる仕組みづくりにより、若年世代の定住促進を図ります。

数値目標	基準値	目標値(令和6年度)
20～40歳代の平均転出超過数(3か年平均)	437人 (H28～H30の平均)	基準値より改善 (R4～R6の平均)
小牧市に愛着や誇りを感じている市民の割合	74.9%	基準値の水準以上

施策1. 都市ブランディングの推進

(1) 地域ブランド戦略の推進

【目標】

市民に対して、地域ブランド戦略の取組みを発信するとともに、市外への魅力発信により外からの評価を高めることで、市民の誇りや愛着の醸成を図ります。

【主な取組み】

主な取組み	内容
①コミュニケーションプログラムの推進	ブランドムービーやブランドブックを活用し、地域ブランド戦略について分かりやすく情報発信するとともに、様々な手法を使い、地域ブランド戦略の取組みを市内外に広く発信します。
②アクションプログラムの推進	小牧市が目指すまちのイメージ「夢・チャレンジ始まるの地 小牧」を実現していくための取組みを取りまとめ、市内外に広く発信します。

【施策の進捗状況を測定するための指標】

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値(令和6年度)
ブランドロゴマーク・キャッチフレーズを知っている市民の割合	72.9%	基準値の水準以上
コマキッズドリームプロジェクトに参加したこどもの数《再掲》	6,922人	10,000人
小牧市歴史館及び小牧山城史跡情報館の入館者数	—	121,000人

施策2. 新たな“ひと”の流れの創出

(1) 中心市街地の魅力と賑わいの創出

【目標】

まちの核としての中心市街地の魅力と賑わいを創出することで新たな人の流れを作ります。

【主な取組み】

主な取組み	内容
①中心市街地の都市機能強化	魅力あるサードプレイスとして、こどもから高齢者まで多くの市民が集う滞在型の「新しい図書館」、こどもを中心に世代や立場を越えて市民がつながるための「(仮称)こども未来館」、駅利用者の利便性の向上を図るための「小牧駅前広場等」の整備を一体的に進めるとともに、魅力と賑わいのある中心市街地を創出することで、新たな人の流れを創出します。

【施策の進捗状況を測定するための指標】

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値(令和6年度)
中心市街地の来訪者数《再掲》	—	750,000人

(2)地域資源の魅力の創出

【目標】

地域資源の魅力を高めることで、小牧を訪れる人を増やします。

【主な取組み】

主な取組み	内容
①魅力あるイベントやまつりの開催	イベントやまつりごとの特性を踏まえ、魅力の向上を図るとともに、その魅力を幅広く周知するために情報発信を強化します。
②小牧市の食や名産品の普及・開発	市民にとって親しみが持て、さらに市外にもPRできるような、小牧ならではの食や土産物などの名産品を掘り起こすとともに、新たな開発に取り組みます。

【施策の進捗状況を測定するための指標】

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値(令和6年度)
主要なイベント及び地域資源への年間来訪者数(交流人口)	1,944,102人	※
食・名産品の開発件数(累計)	0件	3件

※令和2年度に実態調査等を行い目標値を設定。

施策3. 若年世代の定住促進

(1)定住につながる取組みの推進

【目標】

定住につながる仕組みづくりをして、若年世代の定住を促進します。

【主な取組み】

主な取組み	内容
①定住につながるプロモーションの強化	本市の取組みや魅力、生活イメージのほか、近隣市町と比べ働く場が充実しているなど本市の特徴を各種団体・企業・金融機関等と協力して積極的に発信します。
②定住につながる支援	空き家の活用や子育て世代の住宅取得に対する支援などを実施します。

【施策の進捗状況を測定するための指標】

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値(令和6年度)
市の定住支援施策を通じて定住した20~40歳代の人数(累計)	110人	600人

総合戦略における施策及びKPI一覧表

基本目標、施策	数値目標、KPI	基準値(R10)	目標値(R6)	目標値の説明	担当課
◆基本目標1 持続して発展 を続ける確 立による雇 用の確保・創 出	従業員数（製造業及び卸売業、小売業）【経済センサス】	51,353人（H28）	53,093人	過去5年間における最大値（H26）を目指す。	商工振興課
	市内総生産額【あいちの市町村民所得】	970,200百万円（H27）	977,000百万円	過去15年間における最大値（H17）を目指す。	商工振興課
	製造品出荷額【工業統計（従業員4人以上）】	1,362,734百万円（H29）	1,444,907百万円	過去15年間における最大値（H27）を目指す。	商工振興課
	年間商品販売額【経済センサス】	712,371百万円（H27）	726,028百万円	基準値にH23～H27増加額（13,657百万円）を見込んだ726,028百万円を目指す。	商工振興課
●施策1 企業誘致と産業集積の推進					
(1) 次世代成長産業の集積強化	次世代成長産業分野に属する新規企業の数（累計）	5件	7件	過去に選出した次世代成長産業分野に属する企業数から算出し、令和2～4年度までの5年間で7件の立地を目指す。 ※次世代成長産業…航空宇宙、次世代自動車、環境・新エネルギー、ロボット、情報通信、健康長寿等	企業立地推進課
	市の補助制度を活用して選出した企業数（累計）	15件	18件	過去に市の補助制度を活用して新たに選出した企業数から算出し、令和2～4年度までの5年間で3件の立地を目指す。	企業立地推進課
	新たな立地許可基準（12号条例）を活用した立地件数（累計）【都市計画法第34条第12号を活用した立地の企業累計数】	2件	4件	過去に都市計画法第34条第12号を活用して立地した企業数から算出し、令和2～6年度までの5年間で2件の立地を目指す。	企業立地推進課
●施策2 市内企業の振興支援					
(1) 将来を見据えた市内産業力の強化	こまき新産業振興センターの支援活動を契機に生産性を向上させた企業数	—	20件	生産性向上を実現して市内企業の競争力を高めるため、20件/年度の達成を目指す。	商工振興課
	生産拠点などの新增設件数（累計）【物品の製造又はその研究開発の事業の用に供する施設の新増設件数の累計】	—	10件	企業立地促進補助金及び市内企業再投資促進補助金について、2～3件/年度の認定を目指す。	企業立地推進課
	中小企業次世代成長産業設備等導入補助金の活用件数（累計）	14件	30件	新産業振興支援センターの支援活動による増加を考慮し、2～4件/年度の活用を目指す。	商工振興課
●施策3 起業・創業支援					
(1) 起業・創業支援	セミナー参加者の起業（創業）者数（累計）【アンケート】	24人	54人	6人/年度の起業を目指す。	商工振興課
	起業・創業者に対する各種補助件数	57件	70件	70件/年度の補助件数を目指す。	商工振興課

※ [] でマーキングしている箇所は、小牧市まちづくり推進計画市政戦略補正事業で目標値を定めていることから、令和4年度までの達成を目指します。

基本目標、施策	数値目標、KPI	基準値(R10)	目標値(R6)	目標値の説明	担当課
●施策4 企業の人材確保と働き手の就労支援					
(1) 採用活動と求職活動の支援	市の施策を通じて就職した人数	7人	10人	10人/年度の就職を目指す。	商工振興課
◆基本目標2 若年世代の希望がかなう結婚・出産・子育て環境の整備（こども夢・チャレンジNo.1都市の実現）	合計特殊出生率【1人の女性が一生に産む子どもの平均数】	1.44（H20）	1.80（R12）	小牧市人口ビジョンの目標値1.80（R12）を目指す。	多世代交流プラザ準備室
	安心して子育てができるまらだちと思う保護者の割合【アンケート】	82.6%	85.0%	職種別では、就労者が86.8%、非就労者が72.1%となっているが、非就労者を80.0%まで増加させることで、全体として85.0%を目指す。	こども政策課
	将来の夢や目標を持っているこどもの割合【アンケート】	79.1%	85.1%	毎年1%ずつの増加を目指す。	こども政策課
	未就学児がいる母親の就業率【アンケート】	56.4%	80.0%	厚労省が策定した「子育て安心プラン」の目標値80.0%を目指す。	幼児教育・保育課
●施策1 結婚・出産・子育ての希望をかなえる支援					
(1) 結婚・妊娠・出産・育児の切れ目ない支援	子育て世代包括支援センターや各児童館での相談件数	6,320件	7,000件	令和元年度開始のアニバーサリー事業の増加件数を見込んだ7,000件/年度を目指す。	子育て世代包括支援センター 多世代交流プラザ準備室
	子育てについて相談ができる人がいる保護者の割合【アンケート】	96.9%	100%	全ての保護者が子育てについて相談できる人がいることを目指す。	保健センター
	保育相談の待機児童数【保育認定申請件に該当しているが入園できなかった数（自己都合を除く）】	0人（H31.4.1）	0人	保育園等への入所要件を満たしている児童すべてが各年4月1日時点において保育園等へ入園できることを目指す。	幼児教育・保育課
(2) 子育てと仕事の両立支援	放課後児童クラブの待機児童数	0人	0人	児童クラブの利用が必要な児童すべてが児童クラブへ通うことができることを目指す。	こども政策課
	児童クラブの利用率	0人	0人	児童クラブの利用率が必要な児童すべてが児童クラブへ通うことができることを目指す。	こども政策課
●施策2 こどもの夢・チャレンジの応援					
(1) コマキッズドリームプロジェクトに参加したこどもの数	コマキッズドリームプロジェクトに参加したこどもの数	6,922人	10,000人	こまきこども未来館で行う講座などの取組みによる増加を見込んだ10,000人/年度を目指す。	こども政策課 多世代交流プラザ準備室
	【ブランドアクションプランで位置付ける事業に参加したこどもの数】	—	85.0%	101先事例において、児童生徒の10%以上は否定的な回答をしていることから、外国人児童生徒が多い本市の事情を鑑み85.0%を目指す。	学校教育課
(2) Society5.0を見据えた教育の推進	タブレットPCを活用した授業はわかりやすいと感じている児童生徒の割合【アンケート】	—	85.0%	101先事例において、児童生徒の10%以上は否定的な回答をしていることから、外国人児童生徒が多い本市の事情を鑑み85.0%を目指す。	学校教育課
	タブレットPCなどの学習用コンピュータ1台あたりの児童生徒数	6.6人	1.0人	文部科学省による「GIGAスクール構想」の実現に向け、1人1台端末をもち、十分活用できる環境を目指す。	教育総務課

基本目標、施策	数値目標、KPI	基準値(H10)	目標値(H4)	目標値の説明	担当課
◆基本目標3 都市の活力と暮らしの安心の創造	居住誘導区域内人口密度	54.3人/h	基準値の水 準以上	今後人口減少が進展し市全体人口減少していく中でも、居住誘導区域内においては人口密度の維持を目指す。	都市計画課
	日常生活で外国人市民と接する機会がある日本人市民の割合【アンケート】	33.3% (H29)	35.7%	今後も接する機会が増えていることを見込み、35.7%を目指す。	多文化共生推進室
	生きがいを持って暮らしている65歳以上の市民の割合【アンケート】	82.9% (H29)	基準値の水 準以上	基準値以上を維持することを目指す。	健康生きがい推進課
●施策1 「まち」の活力の創出					
(1) 魅力ある市街地の創出	中心市街地の未訪者数【新図書館とこまきこども未来館の年間未訪者数】	—	750,000人	新図書館約45万人/年度、こまきこども未来館約30万人/年度を目指す。	多世代交流プラザ推進室 図書館
	各駅小牧駅の1日平均乗降客数	11,117人/日	12,521人/日	直近5年間の利用者数の伸び率(2%)を令和6年度まで見込んだ利用者数を目指す。	都市整備課
	土地画整理事業の施行区域内の居住人口	8,893人	10,012人	直近5年間の居住人口の伸び率(2%)を令和6年度まで見込んだ居住人口を目指す。	区画整理課
(2) 暮らしを支える公共施設の構築	公共交通機関の1日平均利用者数【市内公共交通機関(鉄道、民間路線バス、こまき巡回バス)の1日平均利用者数】	44,094人/日	49,659人/日	直近5年間の利用者数の伸び率(1.02%)を令和6年度まで見込んだ利用者数を目指す。	都市整備課
●施策2 活力ある高齢社会(小牧モデル)の構築					
(1) 市民の健康寿命の延伸	週1回以上適度な運動をしている成人市民の割合【アンケート】	46.1%	65.0%	スポーツ庁が策定した「第2期スポーツ基本計画」に掲げる目標値65.0%を目指す。	文化・スポーツ課
	フレイル予防事業への参加者数【フレイル予防につながる住民主体の通いの場の参加者数】	1,500人	3,700人	高齢者人口(令和4年度)の10%の参加者数を目指す。	地域包括ケア推進課
(2) 生涯学習を通じた生きがいづくりと人材育成	生涯学習の支援や指導に関わった市民の割合【アンケート】	7.7%	10.0%	生涯学習の支援や指導に関わる市民を増やし、生涯学習の成果が地域社会に還元される仕組みづくりを目指す。	文化・スポーツ課
(3) 地域協議会を通じた地域活動の活性化	地域協議会が設立された数(累計)	8組織	16組織	市内16小学校区全てで地域協議会設立を目指す。	支え合い協働推進課
	福祉分野の活動をしている地域協議会の数(累計)	2組織	16組織	市内16小学校区全ての地域協議会で、福祉に関する事業の展開(高齢者等の困りごと支援、高齢者サロン等の集いの場の開催等)を目指す。	支え合い協働推進課
(4) 健康・支え合い活動の充実と地域内循環の促進	健康いきいきポイント還元者数【検診の受診やケア等を通じて獲得したポイントを市内限定商品に交換した人数】	1,088人	2,000人	より多くの人に健康づくりに取り組んでいただくよう、2,000人/年度を目指す。	保健センター
	支え合いいきいきポイント還元者数【年間500円以上交換したお互いさまポイントの数】	849人	2,000人	登録団体数の伸び率が20%と見込み、還元者数2,000人/年度を目指す。	支え合い協働推進課

基本目標、施策	数値目標、KPI	基準値(H10)	目標値(H4)	目標値の説明	担当課
●施策3 日本人市民と外国人市民が活躍するまちの実現					
(1) 多文化共生の推進	日本人市民と外国人市民が交流する事業などへの参加者数	1,985人	2,200人	外国人の方の参加者数が増え、2,200人/年度を目指す。	多文化共生推進室
◆基本目標4 訪れたいくなる、住みたくなる小牧の魅力の発信と創造					
	20～40歳代の平均転出超過数(3カ年平均) 【20～40歳代日本人の直近3カ年平均した転出超過数】	437人 (H28～H30の平均)	基準値より改善 (R4～R6の平均)	令和4～6年における20～40歳代の平均転出超過数が、平成28～30における数(437人)より改善することを目指す。	シティプロモーション課
	小牧市に愛着や誇りを感じている市民の割合【アンケート】	74.9%	基準値の水 準以上	基準値以上を維持することを目指す。	シティプロモーション課
●施策1 都市ブランディングの推進					
(1) 魅力ある市街地の創出	ブランドロゴマーク・キャッチフレーズを知っている市民の割合【アンケート】	72.9%	基準値の水 準以上	基準値以上を維持することを目指す。	シティプロモーション課
(2) 地域ブランド戦略の推進	コアキョブドリームプロジェクトに参加したこども数(再掲)	6,922人	10,000人	こまきこども未来館で行う講座などの取組みによる増加を見込んだ10,000人/年度を目指す。	こども政策課 多世代交流プラザ推進室
	小牧市歴史館及び小牧山城史跡情報館の入館者数	—	121,000人	歴史館の近年入館者数と史跡情報館の入館者見込数に拮して、10%増の121,000人/年度を目指す。	小牧山課
●施策2 新たな“ひと”の流れの創出					
(1) 中心市街地の魅力と賑わいの創出	中心市街地の未訪者数(再掲) 【新図書館と(仮称)こども未来館の未訪者数の合計】	—	750,000人	新図書館約45万人/年度、こまきこども未来館約30万人/年度を目指す。	多世代交流プラザ推進室 図書館
(2) 地域資源の魅力の創出	主要なイベント及び地域資源への年間来訪者数(交流人口) 【小牧市民まつりなどの主要なイベントや小牧山などの地域資源への来訪者数】	1,944,102人	※	※令和2年度に実態調査等を行い、目標値を設定。	シティプロモーション課
	食・名産品の開発件数(累計) 【小牧市観光協会の推奨品、観光特産品及び関連事業費補助金で採択された特産品の件数】	0件	3件	小牧ならではの食や土産物などの名産品について3件の開発を目指す。	シティプロモーション課
●施策3 若年代の定住促進					
(1) 定住につながる取組みの推進	市の定住支援施策を通じて定住した20～40歳代の人数(累計) 【三世帯同居・近居住宅支援補助金、空き家サポート(空き家バンク)、その他新設交際補助金を活用し定住した20～40歳代の合計人数】	110人	600人	定住につながる取組みを推進し、令和6年度までに600人の定住を目指す。	都市計画課